

# 堺市における居場所の包括連携 によるモデル地域づくり ～居場所の触媒機能と子ども・若者への イエローシグナル相談支援の開発～

堺市とは…

○人口数が府内で大阪市に続き2番目、約80万人

○百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録された

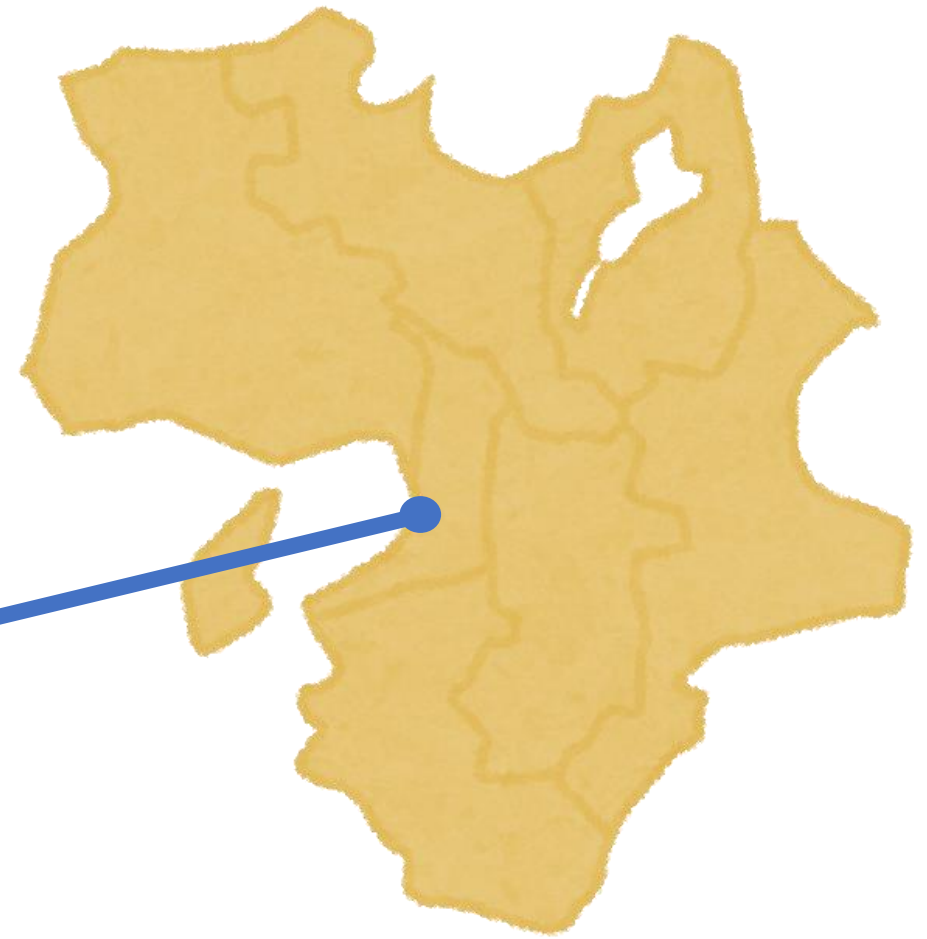
行政区： 7区

小学校区：92校区

日常生活圏域：21圏域



休眠預金を活用した事業です



2023年4月25日

社会福祉法人 堺市社会福祉協議会  
事務局次長 兼 地域福祉課長 所正文

# 1. 団体概要・事業内容

- 昭和27年 設立
- 昭和35年 社会福祉法人格を取得
- 昭和44年 校区福祉委員会の組織化
- 昭和51年 ボランティアセンター設置
- 昭和62年 校区福祉委員会「活動推進モデル校区事業」開始
- 平成5年 第1次地域福祉総合推進計画策定
- 平成11年 校区福祉委員会「小地域ネットワーク活動推進事業」開始
- 平成18年 政令指定都市社協となる  
7区事務所を設置（平成17～18年の2か年で）
- 平成21年 第4次地域福祉総合推進計画を初めて行政と合同で策定（新さかいあったかぬくもりプラン）  
地域福祉ねっとワーカー(CSW)の設置
- 平成26年 第5次地域福祉総合推進計画(堺あったかぬくもりプラン3)を行政と合同策定  
生活困窮者自立促進モデル事業(生活・仕事応援センター)の受託
- 平成27年 生活困窮者自立相談支援事業、生活支援コーディネーター配置事業の受託
- 平成29年 生活支援コーディネーター圏域配置モデルの受託  
子ども食堂ネットワーク形成支援事業の受託
- 平成30年 地域福祉型研修センター機能の本格実施
- 令和2年 第6次地域福祉総合推進計画(堺あったかぬくもりプラン4)を行政と合同策定
- 令和3年 2020年度休眠預金活用事業に採択される

職員数（令和5年2月現在）	
正職員	90人
非常勤職員	34人
合計	124人

### 堺市社協活動の特徴

- ①組織化活動を中心とした取り組み
- ②個別支援機能を発揮し、「福祉の地域力」を高める実践
- ③計画に基づく取組
- ④市（行政）との協働
- ⑤研究者との共同研究を活かした実践
- ⑥地域福祉の総合的な推進

### 2020年度休眠預金活用事業

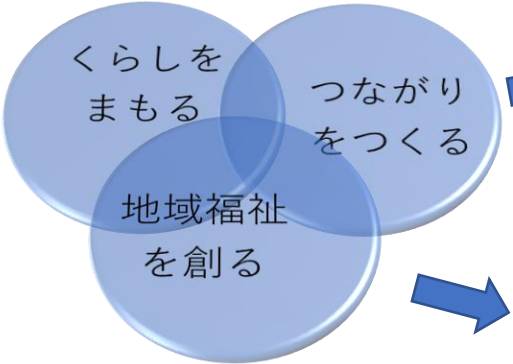
堺市における居場所の包括連携によるモデル地域づくり  
～居場所の触媒機能と子ども・若者へのイエローシグナル相談支援の開発～

- ・居場所の多様化・多世代化・活性化と新たな層とのつながりの創出
- ・子ども・若者へのイエローシグナル相談支援機能の開発

## 堺市社協の総合力を一体的に活用 = 地域福祉の総合的な推進 =

**【直接支援】**  
さまざまな困りごとに対して地域に根差した相談支援

- 【事業や活動】**
- ・コミュニティーソーシャルワーカー
  - ・権利擁護サポートセンター
  - ・基幹型包括支援センター
  - ・日常生活自立支援事業
  - ・生活・仕事応援センター



**【間接支援】**  
地域や団体のさまざまな活動を支援

- 【事業や活動】**
- ・校区福祉委員会支援
  - ・ボランティアセンター
  - ・生活支援コーディネーター
  - ・子ども食堂ネットワーク
  - ・市民活動サポートセンター
  - ・ファミリーサポートセンター
  - ・福祉教育

**【調査研究・企画開発】**  
誰もが自分らしく暮らせるよりよい地域づくりのための様々な連携や協働

- 【事業や活動】**
- ・堺あったかぬくもりプラン4の推進
  - ・地域福祉型研修センター

## 2. この2年間での取組

堺市社協の休眠預金活用事業では、「イエローシグナル相談支援体制づくり」と「居場所の包括連携づくり」を2つの柱としている。

### イエローシグナル相談支援体制づくり

#### モデル区における専門職への働きかけ

「西区で協働をすすめるためのソーシャルワーク研修」

実施日：令和4年10月6日・19日

参加者：各26名

(ケースワーカー・生活相談員・MSW・保育教諭  
・介護福祉士・PSW・福祉用具専門相談員・  
相談支援専門員・看護師・介護支援専門員など)

〈ポイント〉

- ・ 参加する学びの場
- ・ 企画メンバーが研修を創る主体性
- ・ 協働実践のモデル体感
- ・ 次年度への継続性

〈企画会議〉

- ・ 企画会議を3回実施。
- ・ 企画メンバーは多様な分野で構成。  
⇒ 保育・高齢・障害分野、包括支援センター、障害者基幹相談支援センター、西区生活援護課・子育て支援課  
・ 西保健センター、堺市社協西区事務所、府社協社会貢献支援員、計15名
- ・ 研修後には企画者によるふりかえりを実施。

〈事後アンケート〉

- ・ 参加者への事後アンケートは、研修会直後と2か月後に実施。2か月後アンケートでは、実際に研修で学んだ専門職同士が協働し、支援につながった事例も報告されている。
- ・ 6か月後アンケートも実施予定で、研修での学びがどのように支援に活かされているかを追っていく。

### 居場所の包括連携づくり

#### 子ども食堂がないモデル校区での取組

ヒアリング①（対話の場面）

令和3年11月に実施。

地域活動者の課題感と地域の理想像を共有。

子どもの居場所づくりの働きかけ

「子ども福祉会館」があったらいいなという意見をもとに、子どもの居場所づくりを提案。

「子どもひろば実行委員会」の発足

校区福祉委員会を中心に、PTAなどの若い世代を含め約30名で実行委員会を結成。オブザーバーとして、小・中学校の校長や地域包括支援センターの職員、議員も加わるなど、多様な人々が関わっている。

日常生活圏域コーディネーターの支援

- ・ 実行委員会への参画  
活動について、目的の確認、進め方の提案、事例紹介。
- ・ 実行委員へアンケート  
活動内容についてのアンケートを実施し、活動に反映。
- ・ 子ども食堂の見学に同行  
子どもの居場所をイメージできるように、見学会を実施
- ・ ヒアリング②（対話の場面）  
令和4年11月に実施。  
実行委員会として大切にしたいことや今後の活動で気になることを共有。

ディスコン交流会の実施

- ・ 成功体験で、活動のモチベーションがUP
- ・ 学校との協働ができた

#### 子ども食堂が複数あるモデル校区での取組

子ども食堂実践者への働きかけ

令和4年7月に、3つの子ども食堂の実践者へヒアリングを実施。校区の課題とともに子どもとのホットなつながりづくりのアイデアが共有され、顔の見える関係づくりが行われた。

- ・ イエローシグナルに関する事例が複数共有されるとともに、対応の難しさやそのような子どもをつなぐ先について、意見が交わされた。
- ・ 子ども食堂が学校とつながっていく可能性が見出された。
- ・ 「3つの子ども食堂の連携を深めていきたいこと」「地域で子ども食堂の認知度を高めていきたいこと」「3つの子ども食堂で大鳥大社も含めたイベントを行いたいこと」が共有された。

地域活動者への働きかけ

校区福祉委員会、自治連合会などの地域活動者へヒアリングを実施し、子どもに関する思いを引き出した。

- ・ ヒアリングのフィードバックを行うと、子どもに関する課題を共有できたとの前向きな反応があった。
- ・ 「子ども・若者との交流」や「子どもが大人に教える活動」があったらいいなという声があがった。

- ・ 令和5年度は、子ども食堂の協働イベントを実施予定。
- ・ イベント実施の過程で、地縁組織による地域活動者との接点もつくっていく。

### 3. 成果や手応え

#### イエローシグナル相談支援体制づくり

①ソーシャルワーク研修を実施したことで、まずは、専門職同士の顔の見える関係づくりを強化し、協働へのスタートをきることができた。

★協働に関する事例（2か月後アンケートより抜粋）

- i 生活保護受給者の受給廃止後の生活について、他機関に見守ってもらえるよう、様々な情報や課題を共有した。
- ii 高齢者虐待案件での家族支援について協働した。

専門職自身が企画者となり、企画会議を通して  
専門職同士がチームビルドされる



チームビルドされた企画者がつくった研修で、  
参加者が学び合う



支援の関係につながる

令和5年度は…

②子ども食堂などの居場所活動者が専門職に相談しやすい関係をつくるため、お互いに学び合い、交流できるような対話の場面をセッティングしていく。

③イエローシグナル相談支援体制の基礎づくりを進め、予防的支援の認識や相談体制づくりの確立につなげる。

#### 居場所の包括連携づくり

①日常生活圏域コーディネーターの地域支援について、「子ども食堂のある校区」「子ども食堂のない校区」への働きかけが確立されつつあり、今後、様々な校区の特性に合わせた地域づくりを展開できる可能性が見出された。

②対話の場面を起点として、思いや課題を共有し、イベント等の成功体験を経て、次の課題ややりたいことに取り組むというサイクルが実践できた。

③活動者や活動内容の多様化の可能性が広がった。

令和5年度は…

④「子どもひろば」の安定した開催

⑤地域での子ども食堂の認知度向上を目的に、3つの子ども食堂の協働イベントを実施。

★イベント実施の過程で、地縁組織など地域との接点をつくって巻き込んでいく。

★イベントの成功体験を経て好循環を生み出す。

⇒子ども食堂と地域の連携、地縁組織による活動の活性化



ソーシャルワーク研修の様子

## 4. 展望

モデル区における取組で積み重ねた実績

相談支援体制の基礎づくり

対話の場面を起点とした地域づくり支援



### ①イエローシグナル相談支援体制の構築

- ・ 専門職の協働をすすめるためのソーシャルワーク研修の実施
  - ・ 専門職と居場所活動者との協働をすすめるための学びの場の実施
- 研修等での学びの関係から、実際の支援につながる関係の構築

### ②居場所の包括連携づくり～モデル校区での取組～

- ・ 子ども食堂がない校区への働きかけと子どもの居場所の立ち上げ
  - ・ 子ども食堂が3つある校区の、地域活動者との連携への支援
- 子ども食堂がある校区とない校区へのコーディネーターの支援の確立

## 堺市での社会的インパクト

モデル区における2つの柱の取組で得た知見を地域づくりに最大限に活用  
区域や校区での日常生活圏域コーディネーターの専門性や支援の確立  
予防的支援の認識を深め、相談支援体制の確立をめざす

